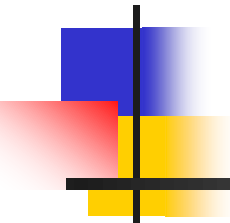


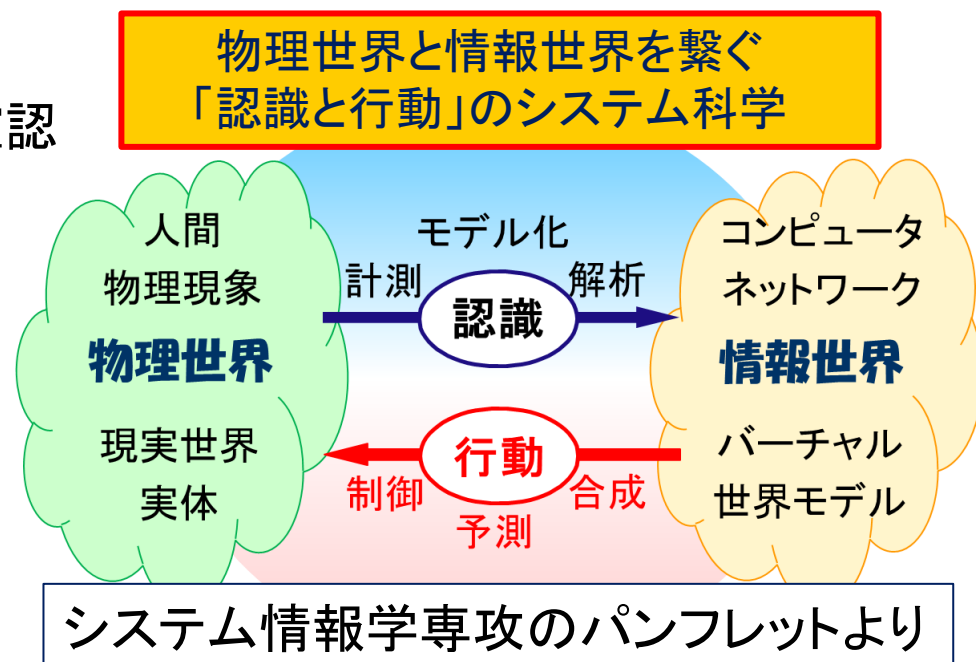
ポスト・コロナの新たな情報化社会へ 向けての提言



情報理工学系研究科 システム情報学専攻
中村 宏

新たな情報化社会へ向けて

- サイバーフィジカルシステムとして
 - 物理世界と情報世界が高度なインタラクションを行う
 - Society 5.0 = Cyber-Physical System + Data
- 目標: 物理世界でヒト・モノと高度なインタラクション
 - その手段として情報世界とのインタラクション
 - 例: 目的地へ着くのに
 - 昔: 地図見ながら位置確認
 - 今: スマホ上で位置確認
- 起こったこと
 - 技術進展 in 情報世界
 - コロナ禍 in 物理世界



情報世界の役割

■ コロナ禍でまずは果たした役割

- 物理世界で生じたSocial Distanceを埋める
＝空間的制約を埋める
- 情報技術：圧倒的情報量の高速伝達手段
- 一方で、我々が物理世界で本質的な価値と考えているものを再考する契機

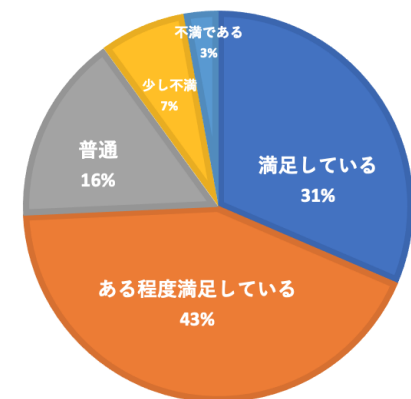
<https://todai-umeet.com/article/53029>

例：オンライン授業

皆が集まって面前で実施(手順)するから伝わると思っていた学習すべき内容(本質的価値)が、オンライン講義{でも／だとより}伝わる：大教室講義、interaction

オンライン授業に満足していますか？

■ 満足している ■ ある程度満足している ■ 普通 ■ 少し不満 ■ 不満である



例：会議の時間短縮と本質議論への集中

総回答701

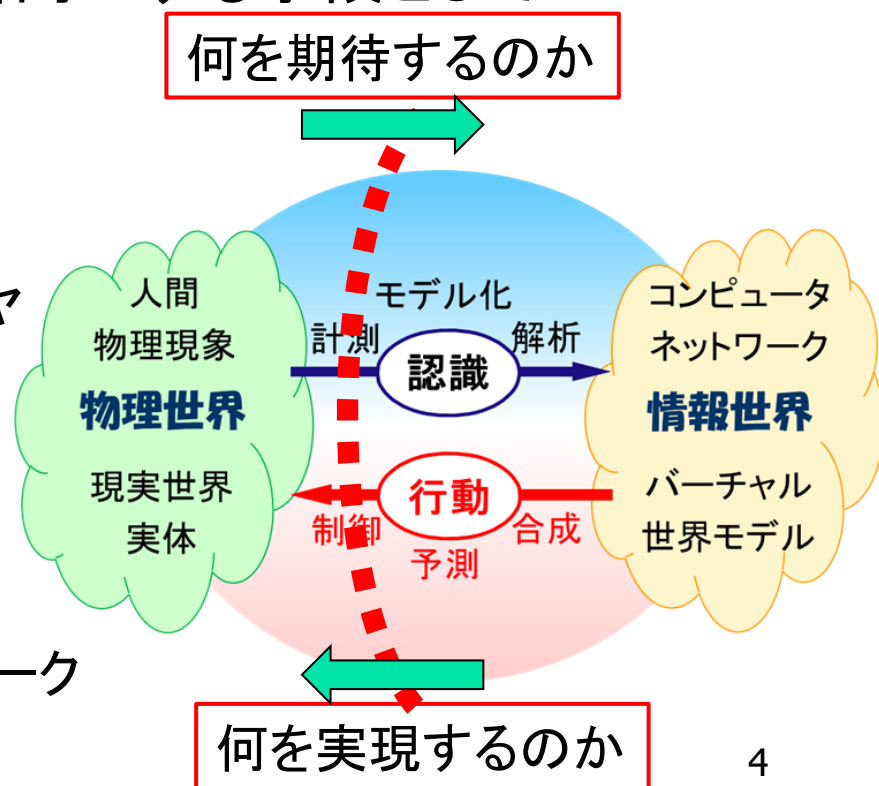
新たな情報化社会へ向けて

■ 元に戻さない

- 手順を情報世界へ移行するのではなく
 - NG例: 紙の書類を郵送→pdf化してメールして印刷
- 本質的な価値を再考し、価値を向上する手段として
情報技術を活用: データ活用
- 物理世界と情報世界の
インタフェース再定義
＝情報化社会のアーキテクチャ

■ 必要となること

- 情報技術の現状と今後を理解
- 皆に情報インフラを提供
 - 電気・ガス・水道・電話／ネットワーク



データ活用社会実現に向けた 全国的連携推進体制

情報理工学系研究科
情報理工学教育研究センター DS部門

東京大学未来社会協創推進本部
データプラットフォーム推進タスクフォース



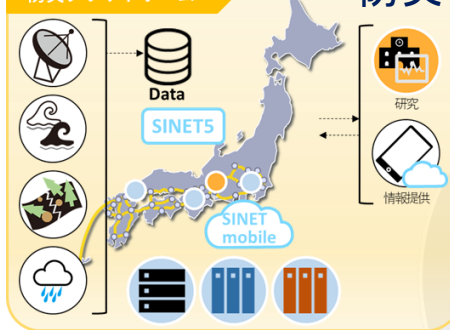
8大学情報基盤センター
(学際大規模情報基盤
共同利用・共同研究拠点)



8大学、2研究機関が一体となって
データ科学・データ活用のための基盤と、共同利用プログラムを整備・運用し
全国から利用可能な拠点として、共同研究・産官学連携のハブとする

データ活用社会創成プラットフォーム

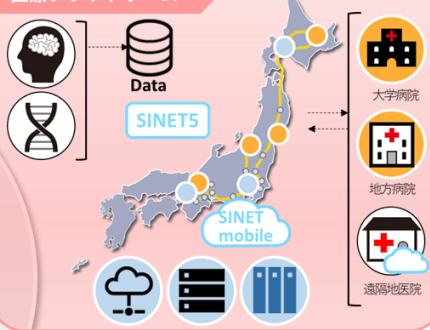
防災プラットフォーム



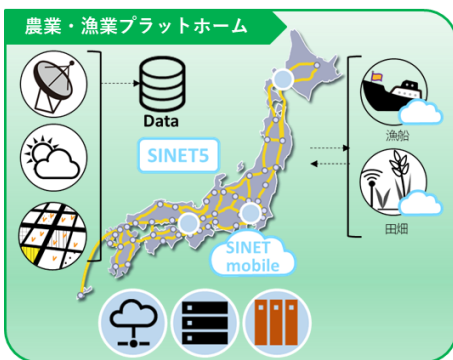
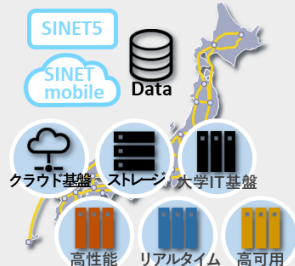
防災

医療

医療プラットフォーム

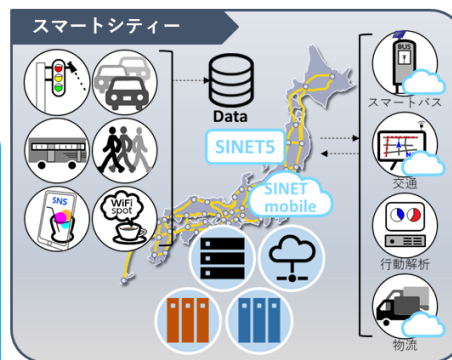
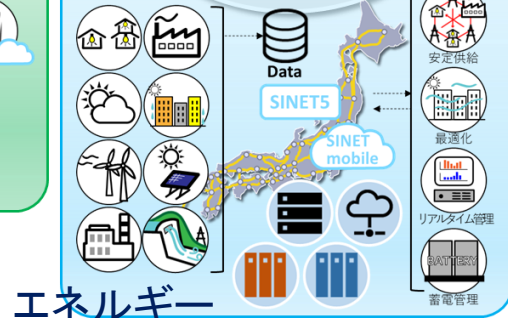


データ活用社会創成
プラットフォームの共通資源



農業・漁業

エネルギー



スマートシティ

【特徴】

- 共有資源上に応用毎のデータ活用基盤提供
- IoT・センサ等外部データの 실시간 처리
- 高性能計算環境と対話的利用の連携
- 高度なセキュリティ環境

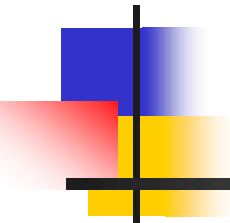
分野・セクタを横断したデータ活用を全国レベルで推進（産学連携、地域連携）

データ科学、データ活用応用

（材料、医療、薬学、歴史、経済、教育、交通、都市工学、etc.）

情報基盤：データ処理基盤 + SINET (セキュアVPN, モバイル網) + データ

ポスト・コロナの新たな情報化社会へ 向けての提言



情報理工学系研究科 システム情報学専攻
中村 宏